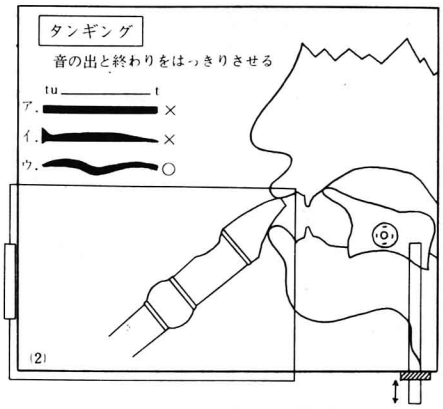
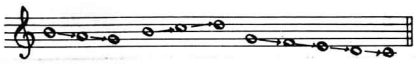
TP1－2	
	• （ＴＰ１の①を取りのぞく）　アのような音の巾でタンギングができるように，吸呼にも注意させる。 • タンギングは音の出だけでなく，音の終わりをはっきりとすることに気づかせる。（ＴＰ１で音の終わりは舌を発音前の位置にもどすことに気づかせる。） ○ いろいろなリズムでタンギング奏ができるようにする。 ※ 技能学習はとかく訓練的な無味乾燥な学習になりがちなので，楽しい音楽的な雰囲気で学習ができるように留意する。 • リズム模倣奏やリズムカノン奏を適宜取り入れる。 ○ 音域を次の順で広げる。 

○ ＴＰの作り方

- 断面図やたて笛は，カラーシートで作る。
- 舌はカラーボードで作り，スナップで止めて手動できるようにする。

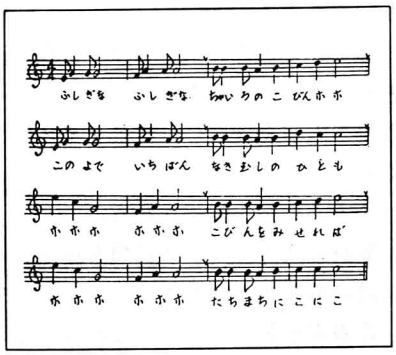
(2) 表現力を高める活用例

① リズム伴奏をくふうする。　（小学校中学年）

題　材　　茶色の小びん　　（おうち　やすゆき作詞　ウィンナー作曲）

ねらい　　リズム伴奏をくふうし，歌・たて笛・打楽器で合奏を楽しむ。

歌唱にリズム伴奏をつけて演奏する場合，既有の編曲によることが多い。既有のものは曲趣にあった編曲で優れているが，児童の実態に即した編曲とは限らないし，学習が受動的になりがちである。児童自ら考え出したリズムは幼稚であるが，より良いものを求めて創造的な学習活動となり，表現力も高められる。

Ｔ　　Ｐ	活用のし方・留意点
TP1－1 	○ ＴＰ1―1を見ながら歌詞唱をする。 • 曲の感じや歌い方について考えさせながら何度も歌わせる。 • 歌いながら四つのフレーズを感じとらせる。〔a，a′，b，b′〕 ○ たて笛でも吹けるようにする。 ○ リズム伴奏をくふうする。 • 音楽に合わせて即興的にリズム打ち（手拍子）をさせる。 • フレーズごとに児童のリズムを取り上げ